

猿 橋  
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## いじめ防止を明るく、楽しく？

校長 澁谷 一男

刈り取りが終わった水田に、再び青々とした稲が再生している。切り株から芽を出す稲のひこぼえ蘗だ。「ひつじ」とか「二番穂」とも呼ばれ、刈り取りの早い水田では2度目の稲穂を付けることもあるという。その力強い生命力には驚かされる。



1年間で児童生徒の自殺が最も多いのが、夏休み明け直後である。過去40年間、18歳以下の子どもが自殺した日を調べた内閣府の調査結果によると、9月1日の自殺者数が131人と突出していた。毎年3.3人の子どもが9月1日に自殺しているということになる。そして、今年の夏休み明けも、全国で複数の子どもたちが自ら命を絶ったという痛ましいニュースが報道された。

「この世に必要な命などない。みんな大切な命であり、一人一人に生まれてきた理由がある。そして、誰もが自分らしく生きる権利があり、幸せになる権利がある。」始業式では、子どもたちに、全員元気に学校に戻って来てくれた喜びとともに、自分のことも周りの人のことも大切に思える人になってほしいと伝えた。

いじめなどで子どもの尊い命が失われるなど、あってはならないことである。

先日、新潟県教育委員会が主催する「いじめ見逃しゼロ県民の集い」に参加した。当日の講演会講師は「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹氏。ユーモラスなあの独特の語り口は、聴く者を全く飽きさせない。さすがである。

講演の中で尾木氏は、東京都のある小学校で行われているいじめの未然防止の取組について紹介された。これが実にユニークで興味深い。子どもたち自らが「キッズレスキュー隊」を結成し、校内パトロールなど、いじめ防止に取り組んでいるというものだった。

ポイントは、子どもたちによる自発的活動であることだ。活動に参加している子どもたちは、皆、生き生きと楽しそうだった。この活動により、子どもたちのいじめの未然防止への意識が高まり、いじめを見抜く感性も磨かれたという。是非参考にしてみたい取組だ。

「いじめの克服（いじめ防止の取組）は明るく、楽しく」「子どものいじめに気付くのは子どもだけ（子どもの方がいち早くいじめに気付くこともある）」印象に残る尾木氏の言葉だ。

現在、学校では子どもたちによる自主的活動や様々な体験的活動が展開されている。まさに「実りの秋」到来だ。